

2016年 11月

熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻

### 理学専攻 M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは平成 27 年度 3 月に修了した自然科学研究科理学専攻の大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2016 年 2 月 17 日 (水)

提出場所: 理学系教務係

結果、88 名から回答を得ることができた。回収率は 95%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

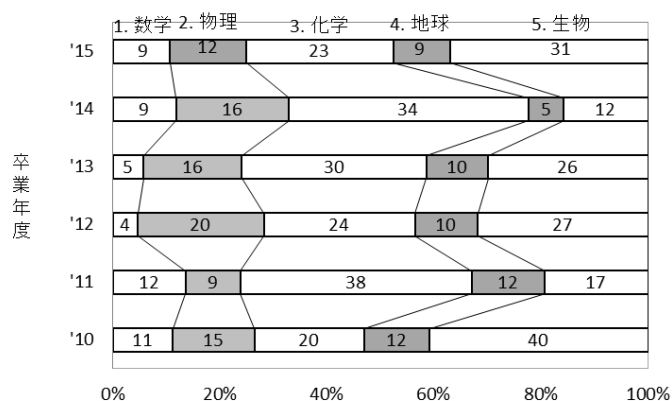
#### あなたの研究分野は何ですか

1. 基礎数理      2. 物理科学      3. 化学

4. 地球環境科学   5. 生命科学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

昨年度多かった化学コースの院生の数が減っている。数学専攻の院生数も過去 2 年間より少ない。



## A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：80件

枠内はこの質問に対する全意見。以下の枠も同様。

- 大学時代の数学をもっと研究したかったから。
- 学部3～4年生の時に数学コースに所属していたので、数学をより深く知りたいと思い数学専攻を選びました。
- 理学部数学コースだったから。
- より専門性の高い数学を学びたかったから。
- 熊本大学理学部で数学を学び、引き続き数学を学びたいと思ったから。
- 学部4年生の時に始めた研究をさらに深く研究したいという気持ちから、大学院へ進みました。
- 大学時代に引き続き成田先生に指導していただきたかったから。
- より深くいままでの研究をしたかったから。
- ・私が研究しようと考えていた分野に合う先生がいらしたから。 ・地元の大学院だったから。
- 学部生でも同研究室に所属しており、更に研究内容を深めたいと考えたため。
- 学部4年時に所属していた研究室に引続き所属を希望したため。
- 4年次までに詳しい研究内容にたどりつかなかったため、より深いテーマで研究を行いたいと思ったため。
- 大学で学んだことをもっと深く理解するため。
- 学部4年生の際に学んだ研究手法について、より深く学びたいと思ったから。
- 学部4年次における研究だけでは大学に入学した意義を見出せなかった。大学院に進学し、同じ研究室で研究を続けたかったため。
- 物理学を深く追求したいと思ったのと、専門性を身につけたいと思ったからです。
- 学部からの研究を続けるため。
- 大学で研究していた内容の続きがしたかったから。
- 同じ研究室にとどまって研究を続けたかったため。
- 熊本大学理学部で学び、その続きを続けたいと思ったから。
- 高校時代から化学、特に環境化学に興味を持っており熊本大学理学部に入学した。分析化学の研究室に所属し、環境化学を専攻することができ、さらに深く携わっていきたいため本研究科を選んだ。
- 学部時代の研究テーマに引き続き取り組みたいと考えたため。
- ・同じテーマの研究を続けたかった。 ・同じ先生の元で研究を続けたかったため。
- 学部時代からの研究テーマについて、より深く理解し、学習するため。
- 動物や植物などに幼い頃から興味があったため。
- 学部生のときに化学に最も興味があったから。実験がすきだったから。
- 学部生の頃の研究を続けたかったためと、就職で化学系の職に就きたかったため。
- 学部では化学を専攻していたため。

- 就職に有利になると考えたため。
- 研究分野の選択に迷っていたため。また、1、2年で幅広い分野の履修が出来るため、幅広い基礎学力を身に付けることが出来ると思ったため。
- 熊本大学理学部に所属していたため。
- 熊本大学理学部にいたから。
- 熊本大学だったから。
- 熊本大学学部時代に所属していた研究室で、引き続き研究を行いたかったから。
- 有機合成化学が学べるため。
- 理学全般を幅広く学び、多面的な視点で物事を見ることができるようになりたかったから。
- 熊本大学理学部に通っていた時に、他大学の大学院に進学する必要性を感じなかったため。4年次に研究していた内容を引き続き研究したかったため。
- 4年のときにしていた研究がおもしろく、もっと勉強してみたいと思ったから。
- 自分の研究を続けたかった。指導教員の人柄。人として見習いたいところが多くあった。
- 熊本大学理学部理学科の4年次から所属している研究室の先生の下で研究を続けたいと思ったため。
- 学部4年次に卒業研究を通して専門分野の初歩的なことを学べたので、大学院でより本格的な研究をしたいと思ったため。
- 4年次の研究を進めたかったから。
- 大学での研究の続きをしたいと思ったから。
- 博士前期課程から入学したため、学部時代の研究よりも分析や解析などを主に取り組みたいと考え、もっとミクロな視点で研究に携わりたいと思ったから。
- 熊本大学卒業後も引き続き同じ場所で研究したいと考えたから。
- 理学専攻の特に地球環境科学において、その知識と研究技術を学び、地球環境科学の分野から社会の諸問題の解決に貢献したいからである。
- 学部4年の時に行った研究をさらに掘り下げて行いたいと考えたため。
- 学部時代に生命科学を専攻しており、その道をもっと極めたいと考えたから。
- 学部で引き続き、生命科学の研究をしたかったから。
- 学部時代の指導教官のもとでさらに深く学びたいと思ったから。
- 学部の頃からはじめた研究を、さらに広げたいと思ったときに、本大学院には研究分野の先生方が多くとても研究しやすい環境であったから。
- 学部時代で学んだことを活かし、もっと専門的な研究にふれてみたかった。卒論の継続（予定）ということもあり、本学の大学院を志望した。
- 学部時代の研究をもっと続けたいと思ったため。
- 学部での研究を続けたいと思ったから。
- 卒業研究で行った内容について、もっと研究したいと思ったため。
- 学部生時に行った研究について興味を持ち、大学院で更に研究を進めたいと考え、進学を決めました。
- 大学で学んできたこと、研究をより深めたいと思ったから。      • プレゼンテーション能力や英語能力なども身につけられると思ったから。

- 学部の頃から様々なサイエンスの分野について学習してきた。その中でも、生命学分野に大変興味をもち、生命科学についての堅実な基礎学力、そして高度な専門知識を習得したいと考え、本専攻を選択した。
- より専門的な知識を身に付けたいと思ったことと、それまでの研究を継続したかった。
- 学部生のとき、生命科学を中心とした理学全般を学んでいくうちにより専門性の高いことを学びたいと思い、専攻しました。
- 大学4年生の時に行った卒業研究をさらに発展されるために進学した。
- 学部の時に行っていた研究を継続したかったため。
- 本学理学部の研究室で継続して研究を行いたかったため。
- 学部と同じ教授の元で研究することができるため。
- 4年の時点で社会に出て行けないと思ったから。
- 理学部を卒業したのでそのまま進学した。
- 生物を勉強したかったから。
- 将来教員志望だったので、深く生命科学を学んでおきたかった。
- 学部4年の1年間だけでは研究し足りなかったから、多くの実験手法を学び、就活に生かすため。
- ・より深い知識をえるため。 ・学部で進めていた研究をより先の段階へ進めるため。
- 熊本大学の理学部に入学して研究室に配属し、そこでそのまま研究を続けたかったので、そのまま熊大大学院に進学しました。熊本の理学部に入った理由としては、理学部のコース分けが3年からだった事と受かる可能性がそれなりにあった事です。
- 熊大理学部を卒業したため。
- 学びたい先生がいたから。
- 生命現象に興味を持っており、学部生時の研究をそのまま続けたいと思ったため。
- 最先端の研究に触れることができると思ったから。
- 研究を続けたいと考えたため。
- 学部で生物を専攻しており、さらに研究を深めたかったから。
- 生命科学が好きだから。
- 生物が好きだったので。
- 生命科学の分野をより深く学びたかったから。

多くあった意見をまとめると以下のようなになる。

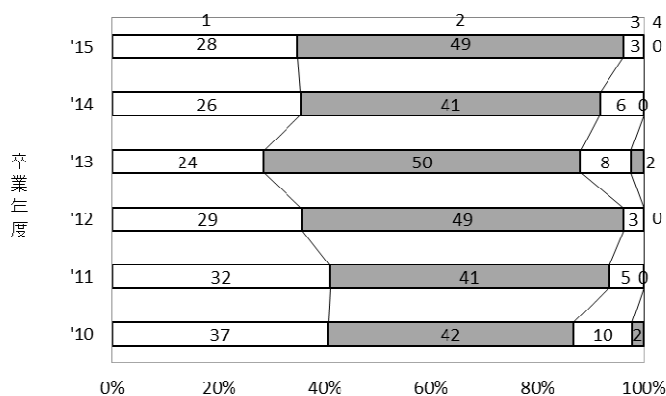
研究を深めたい（継続したい）	52 件
勉強したかった（生物が好き、最先端の研究に触れたい等）	11 件
学部と同じ環境で学びたい	8 件
学部と同じ先生に学びたい	7 件
就職活動のため	4 件

## B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。(該当しない人は次ページの質問 (B7) に進んで下さい).

(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか.

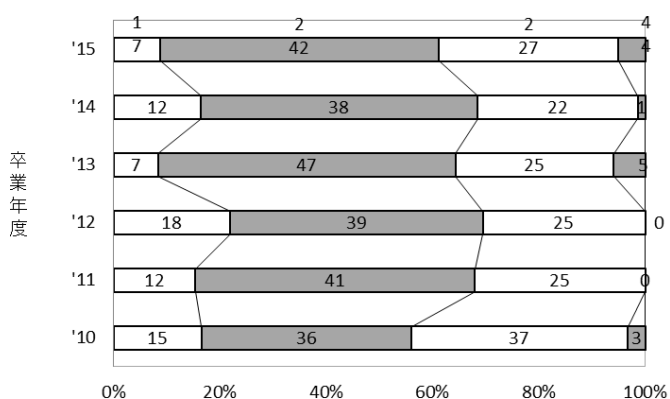
1. 非常に有益だった
  2. 有益だった
  3. あまり有益ではなかった
  4. 有益ではなかった
- 意見など : 2 件



- 基礎は大切であると感じたが、全てが有益ではない。
- 大学院での専門的な研究の基礎づくりとして有益だった。

(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目(専門基礎科目も含む)は、大学院での学習・研究に有益でしたか.

1. 非常に有益だった
  2. 有益だった
  3. あまり有益ではなかった
  4. 有益ではなかった
- 意見など : 6 件

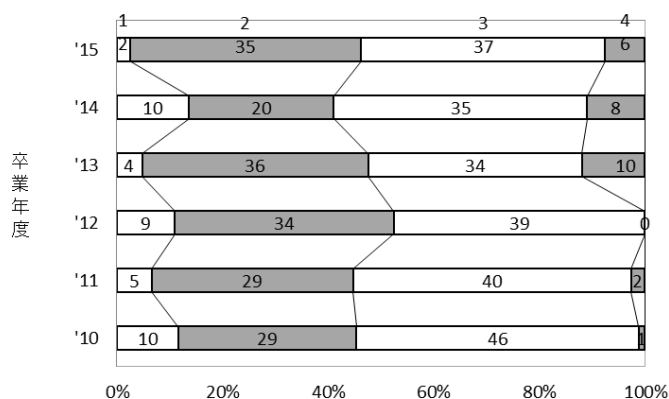


- 得に有益であるものは無かったように思える。
- 研究室に入ると他の分野と関わるのが減った。
- 私は生命科学を専門としていますが、研究では化合物を用いる為、化学の知識が役立ちました。
- 一部の科目(研究に関連しているもの)は有益だった。
- 自身の進めている分野は化学の知識も必要であり、化学について学部時代に学習できたのはとても助かった。
- 英語等を除く。

(B3) 教養教育での学習は、大学院での学習・研究に有益でしたか。具体的な事例があれば、自由記述欄にお書き下さい。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

意見など：6件



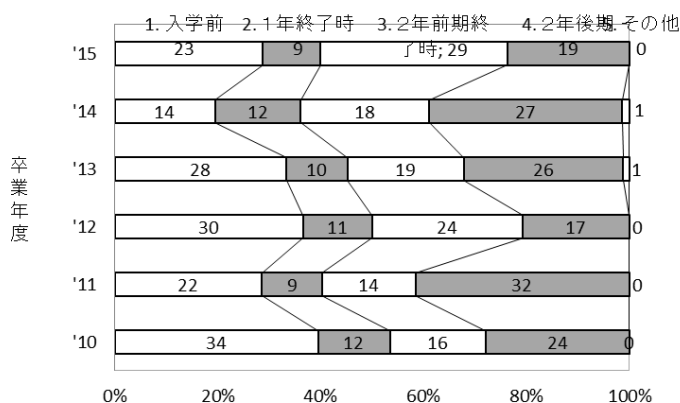
- 教育関係がとくに。
- 英語に関しては、有益だと感じる。
- 人付き合いとか。
- 豆知識が増えた。
- 英語は少々役に立ったが、授業内容をもう少し難しくしても良いと感じた。その方がより有益だと思った。
- 理系の教養科目を履修することができなかったから。

専門分野に関連する学部の専門科目は「有用」と「ある程度有用」で約9割を占めている。一方、専門分野外の専門科目ではここ2年は70%程度になっている。教養教育に関しては、有用だったとする割合が今回はほぼ半数であった。

(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか。

1. 入学前
2. 1年終了時
3. 2年前期終了時
4. 2年後期
5. その他

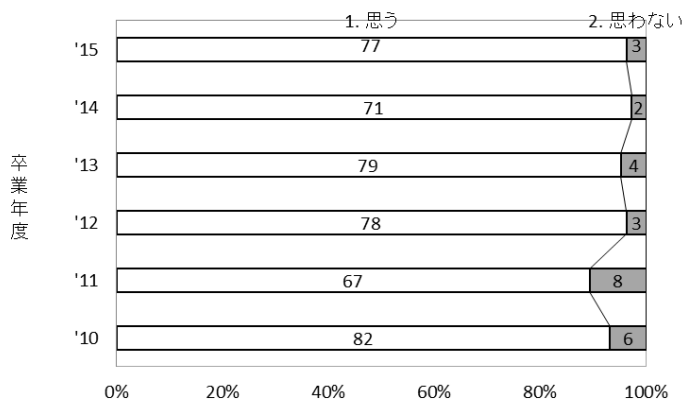
意見など：2件



- 化学にいくつもりでした最初から。
- 入りたい研究室も web を見て決めていた。

(B5) 今かえりみて、専門分野の選択は自分にとってよかったですか。

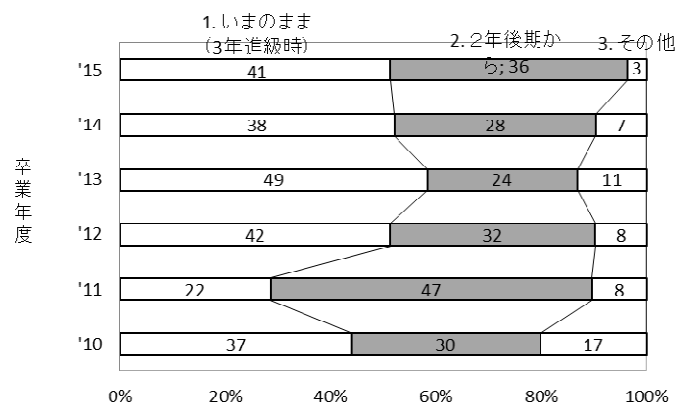
1. 思う
  2. 思わない
- 意見など：2件



- 所属した研究室が自分にあっていたのでそう思う。
- 自分には合っていた。好きなことを研究できて楽しかった。

(B6) 現在、3年進級時にコースを選択していますが、今かえりみていつがよかったですか。

1. いのまま (3年進級時)
  2. 2年後期から
  3. その他
- 意見など：11件



- 3年進級時まで専門分野の選択をじっくり考えることができた一方で、3年生のときの講義で知識の不足目立つ科目もあり、その点では早めにコースを選択した方がいいと思ったときもあり、どちらが良いかいまいよくわからない。
- 1年後期、2年進級時、早くから専門的に学べると更に優秀な学生が育つと思う。
- コースの選択は早い方がいいと思う。
- 自分の周りにはギリギリまで迷っている人とかはいなかった。
- もっと早い時期から専門を学びたかった。
- コース選択をする意識をもっと早い時期から持っていた方がいいように思う。
- 入学後に一通り学んだ後に選択できるのは良いとは思いますが（私自身入学前に希望していた学科から変更しました）その後他大学の同じ分野の学生たちに追いつくのにたくさん勉強しなければならないし、就活も始まってくるので大変だと思います。
- 少しおそい気がする。
- もう少し早くから研究したい分野を決められるといいと思う。
- 研究室配属が遅いため、人によっては卒業研究が大変になる。
- 2年次で行う共通実験で、各コースの雰囲気や内容を知ることができたので。

今年度に関しては、約半数は1年次終了までに専門分野を決めている。逆に考えると半数の人は2年

生以降に専門分野を決めており、大学 1、2 年次が専攻の選択に重要であることが伺える。専門分野の選択に関しては、ほとんどの院生が満足している。今回は「思わない」としている回答はほとんどなかった。

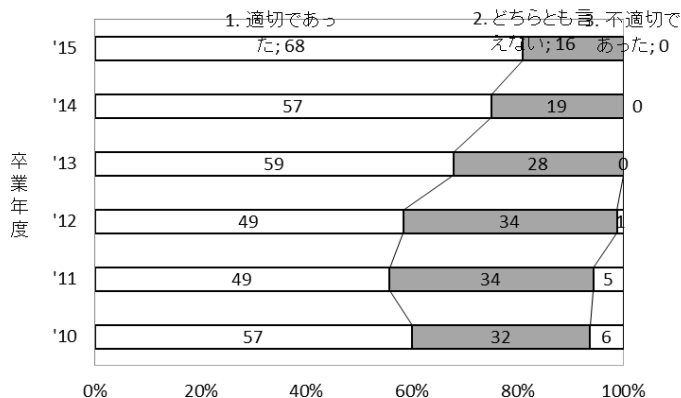
選択の時期に関する問については、昨年度は「2年後期から」が非常に多くなっていたが、今回は「いまのまま」が半数である。今後の推移を見守る必要がある。



自然科学研究科での授業についてお聞きします。

(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

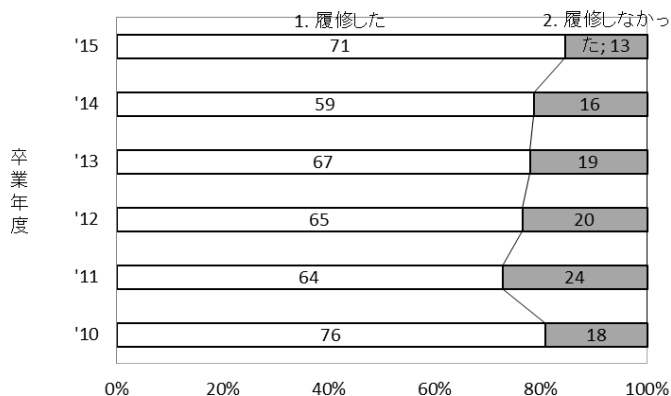
1. 適切であった
  2. どちらとも言えない
  3. 不適切であった
- 意見など：2件



- 必修はもっと多くしてある方がいい。
- 選択科目数が少ない気がします (特に多様性)

(B8) 理学・数学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した (科目数：回答数 66 件)
  2. 履修しなかった
- 意見など：4件



- 自分が取り組んでいる研究と似ている分野であったため、有意義であった。
- 違う大学の先生の話の聞けるととてもいい刺激になる。特に大学にいない分野の先生だととてもいい。
- 本学の先生方が取り扱っていない分野・内容の話の聴くことができ良かった。
- 履修者が多い科目はもっと広い教室で行ってほしかった。(受講が制限され履修できなかった人がいたので)

必修と選択の割合に付いては、約 60%が「適切」としている。「不適切」の回答はほとんどなかった。また、集中講義は7割以上の院生が履修しており、大学院教育の重要な部分を担っていることがわかる。科目数としては 1-3 科目と答える学生が多いが 10 科目という院生もいた。

(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

- 力学系 I、II
- 集中講義
- 数学総合ゼミナール
- 幾何学特論 II
- 群論
- 数学総合ゼミナール
- 確率過程特論
- 構造不規則系物性論、固体電子論、光物性論
- プロゼミ
- 構造不規則性物理
- 物理学特論、色々な教授の研究内容が聞けたから。
- 量子光学、光物性
- 微小領域物性物理
- 微小領域物性物理
- 環境解析化学 II (電気回路について)、環境解析化学 III (周囲の環境について)
- 分析化学。分析にかかわる電子回路についてやデータ処理についてなど、ブラックボックスとなっている部分について学ぶことができたため。
- 分析化学
- 化学英語の授業は多くの専門論文を読む上で役立った。
- 集中講義
- 他大学の先生の集中講義。熊大ではならえないこととか視野が広がったから。
- 有機化学
- 大学院有機講義
- 有機化学特論 I、II、III
- 環境解析化学 III
- 物理化学 V、物理化学 VI
- 物理化学 V
- 大学外の先生の講義で「国際協力」の授業が非常に興味深かったです。自分の目指す進路とも関係するので良かったです。大学の分野としてはなかなか学べない科目なので、こういう新しい(マイナーな)授業もたくさん組み込んで欲しいです。
- 担当教官の授業
- 巡検
- 地球変遷学特論、岩石反応循環論特論、地球環境科学学外実習 B
- Volcanology (長谷中先生)
- 他大学の先生の集中講義
- プロジェクトゼミナール
- 植物多様性学 I・・・(内容に)関連する論文を引用してきて発表する形式はすごく勉強になった。・

動物生態学特論・・・エクセルを用いて多様性のパラメータを求める方法は研究にも役立った。

- プロジェクトゼミナール
- メタ生物学
- 総合科学A-4 (ウイルスとワクチン)
- ウイルスとワクチン、プロジェクトゼミナール
- MOT 特別教育コース
- MOT 基礎
- メタ生物学概論
- 科学英語、海洋生態実習
- プロゼミ
- 理学特別講義
- 修士研究
- 集中講義は勉強になった。
- 構造地質学特論
- プロゼミ
- 生命科学特別研究
- 特になし：3件

(B10) 博士前期課程2年生で授業(特別研究やゼミナールを除く)を何科目履修しましたか。

科目数：平均2.7科目(うち集中講義 平均1.2科目)

回答数：78件

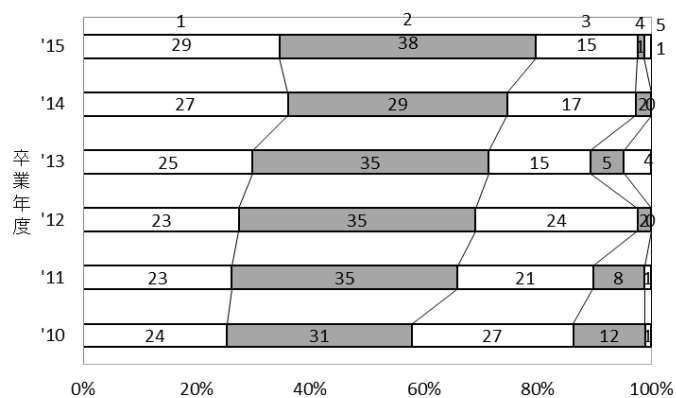
意見など：4件

- 1年ですべて履修した。
- 1年次に卒業要件は満たしたので。
- 集中講義は参加したものの単位取得申請は行わなかった。
- 前期に受講したい科目があったが、就活で受けられなかった。

科目数としては1~2科目の学生が多いものの、10科目以上履修している院生もいる。集中講義に関しても1~2科目の学生が多く9割に達している。

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でしたか.

1. 満足
  2. どちらかといえば満足
  3. どちらとも言えない
  4. どちらかといえば不満足
  5. 不満足
- 意見など : 2 件



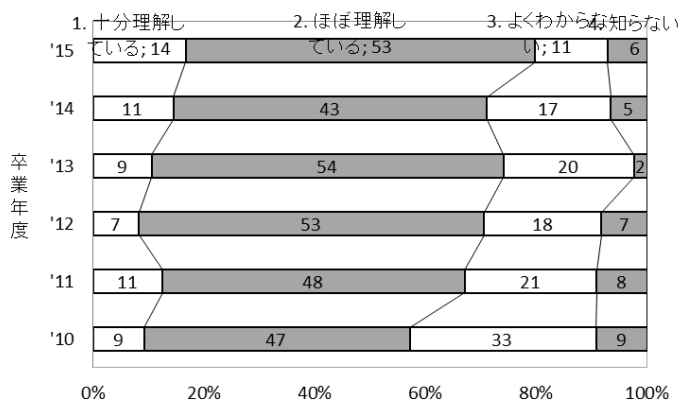
- 1年の時点で修士論文ゼミ以外の単位を取得でき、就職活動に備えることができた。
- MOTの授業で単位をもらえるものが多くなれば、なお良いと思う。

「満足」「どちらかといえば満足」の学生が6割を越えて増加傾向にある。「どちらとも言えない」という回答を更に減らしていく必要がある。

自然科学研究科の教育全般についてお聞きします。

(B12) 自然科学研究科の教育目的「総合的視野のもとに問題を解決し、広い分野で活躍することのできる高度専門職業人として育成する。」は理解していましたか。

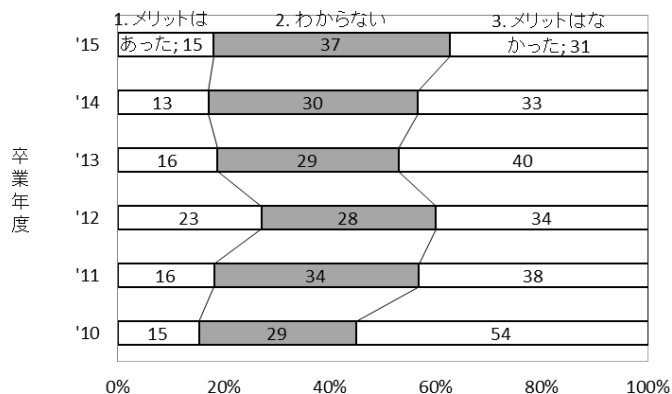
- 1. 十分理解している
  - 2. ほぼ理解している
  - 3. よくわからない
  - 4. 知らない
- 意見など：0件



「十分理解」「ほぼ理解」で8割近くに達しており、年々改善の方向にあるとみなせる。一方で「よくわからない」も存在しており、今後も周知徹底などの対策が必要である。

(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

- 1. メリットはあった
  - 2. わからない
  - 3. メリットはなかった
- 意見など：6件

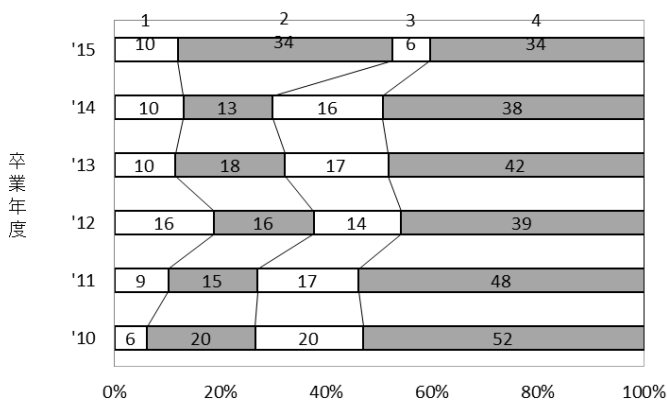


- 応用数理の研究を知れたのはよかったけど、もっと交流したかった。
- 学部時代との違いはない。所詮、理学部と工学部であり、所属を記入するとき文字数が多く疲れるだけ。
- 工学部の他研究室と共同研究できた。
- 接点が無いのでメリットもデメリットもない。
- あまり理↔工で交流する機会はなかったです。IJEPプログラムで一緒に授業を受けたくらいです。
- 学部となんら変わりなかった。

「メリットがあった」とする割合が20%未満であり、年々「わからない」とする回答も増加している。この点に関しては、自由記述欄からも伺える。やはり、システムに関する学生への情報提供を今後精力的に行う必要がある。

(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか.

1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
  2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
  3. 学術以外の交流があった
  4. 全くなかった
- 意見など：4 件

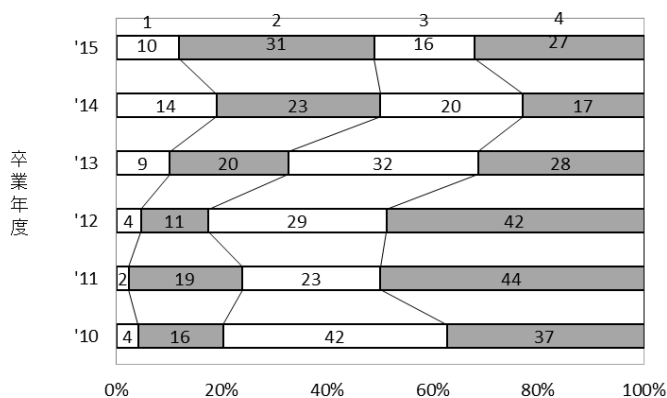


- graphene という同じマテリアルを研究している学生と度々交流があった。
- 工学系の人がいってもわからない。
- 交流する機会が多くなれば、研究より発展することがあるかもしれないと思った。
- 技官の方に実験装置を作成して頂きました。

工学系の大学院生と何らかの交流がある院生が 4 割近くとなっている。特に一緒に研究した院生の数が増えている。

(B15) 理学専攻の他コースの大学院生との学術的交流はありましたか.

1. 一緒に研究した
  2. 一緒に授業を履修した
  3. 学術以外の交流があった
  4. 全くなかった
- 意見など：6 件

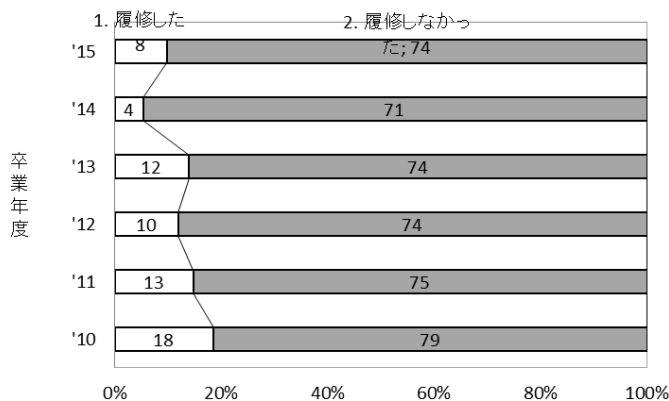


- 実験室に来て装置を使う学生と食事に行くなど。
- 学会で一緒なことはあった。
- 生物分野の学生と化学分野の学生で共同学会を行いました。
- 化学の方と研究した。助かった。
- 集中講義にて席が足りなかった。
- 化学分野の方に化学物質を合成してもらった。

理学専攻の中でも他コースと何らかの交流がある院生は 5 割に留まっている。「全くなかった」との回答も多い。専門性が進むにつれて、コース間の隔たりも多くなるため致し方ない傾向かもしれない。しかしながら、専門に固守するのではなく、様々な分野の情報を入手する習慣をつけ、ブレークスルーを見つける訓練も必要かもしれない。

(B16) 他専攻（複合新領域専攻や工学系の専攻）の授業科目は履修しましたか.

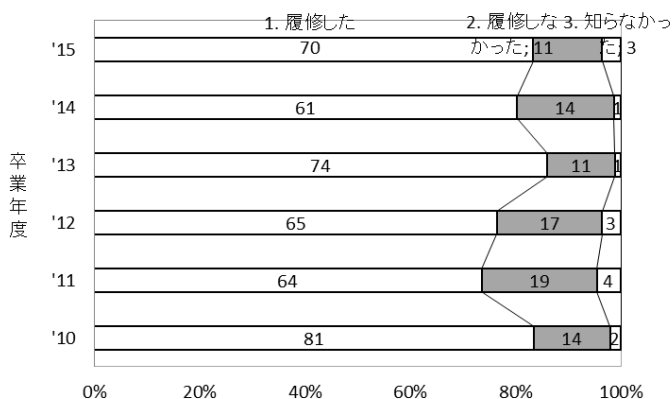
1. 履修した（科目数：回答数 8 件）
2. 履修しなかった  
意見など：0 件



他専攻を履修した学生数は、過去五年間で大まかに減少傾向を示す。科学的な思考を涵養する上で、様々な考え方に触れるのは大事なことで、今後の改善が望まれる。

(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目（プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など）は履修しましたか.

1. 履修した（科目数：回答数 63 件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった  
意見など：1 件

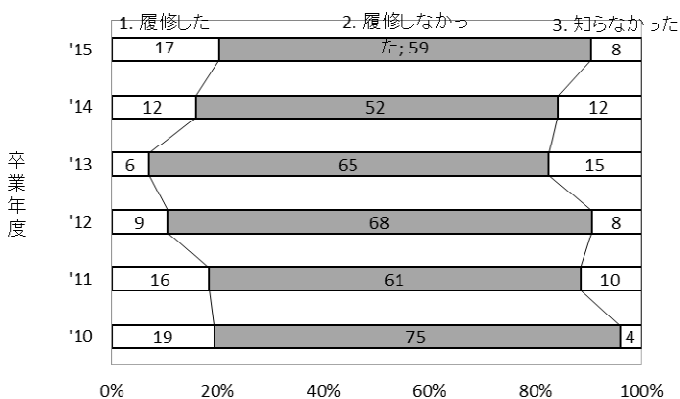


● 学会発表

7 割以上の院生が履修しており、プロジェクトゼミナールの履修などが定着していると思われる。

(B18) 全専攻共通科目のうち高度教養科目、外国語リテラシー科目、総合科学 A~C、IJEPC 科目、MOT 科目は履修しましたか.

1. 履修した（科目数：回答数 16 件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった  
意見など：1 件



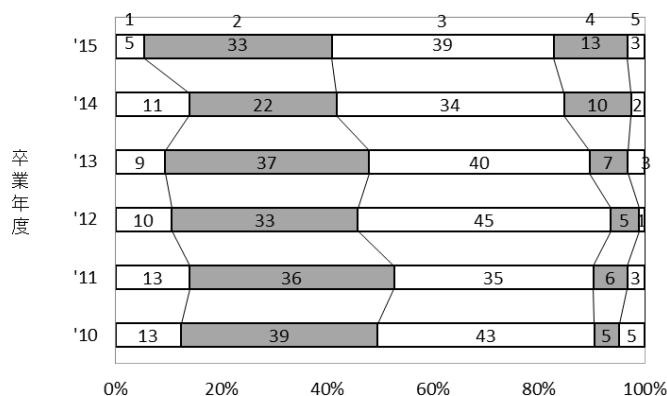
● MOT のみ

(B17)と対照的に履修した院生の割合はかなり少ない。

(B19) 自然科学研究科が進めている授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。(複数選択可)

1. 全て英語が良い
2. 専門用語は英語が良い
3. 基礎的な内容は日本語が良い
4. 全く必要ない
5. その他

意見など：7件



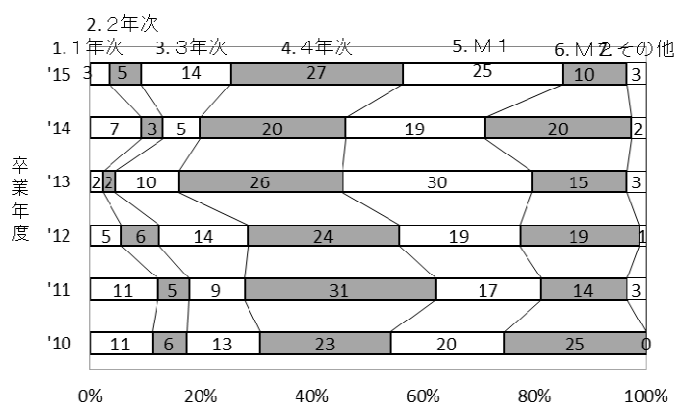
- 必要に応じて使い分ければ良いと思う。
- 読み書きが英語なのは良いと思うが、日本人教員の話す上手くない英語をリスニング力の無い学生が聞きとれないので、授業が進まないと感じる。それならば学部での英語教育に力を入れるか、院試の英語の質を向上させ、院生の英語力の底上げを計った方がいいかと。
- 研究とは直接関係のない授業を英語で受けるのはかなりの負担になり、研究に支障をきたす。英語は別枠で十分だと思う。
- 英語ができない人もいるから、授業全部を英語化しても内容理解できなければ無意味。
- 論文読むときとか助かるかもしれない。
- 板書は英語で良いが、内容は日本語で行われないと完全に理解が出来なくなると思う。
- 選択制にするとよいと思いますが、英語で学びたい学生にもっと機会があるとよいと思います。

「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い一方で、「全て英語」「専門用語は英語が」と答える院生が4割いることは重要である。大学院教育における英語の使い方を検討すべきだろう

(B20) 学部・大学院の6年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

意見など：7件



- 学部卒での就職を2年次までは考えていたが、研究職に就きたいと考えるようになった。
- 研究分野
- 研究室に入って、テーマが与えられてからは目的意識を持つことができたからだと思います。
- 4年で研究室配属後すぐ卒業研究に着目しなければならず、学ぶことだらけでした。



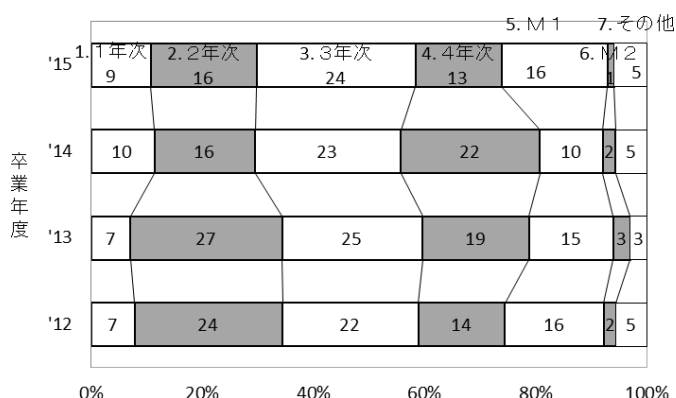
- 研究室に配属され、先輩方に追いつきたいと思ひ意欲が上がった。
- 4年次～M2 研究室はいぞく後、研究を開始してから。
- つねに高かった。

今年度に関しては、「4年次」「M1」「M2」がほぼ拮抗している。やはり研究室で研究を行うようになってから、勉学意欲が上がっているものと思われる。

(B21) 振り返ってみて、学部・大学院の6年間で、いつの時期にもっと学修しておけば良かったと思いますか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

意見など：11件



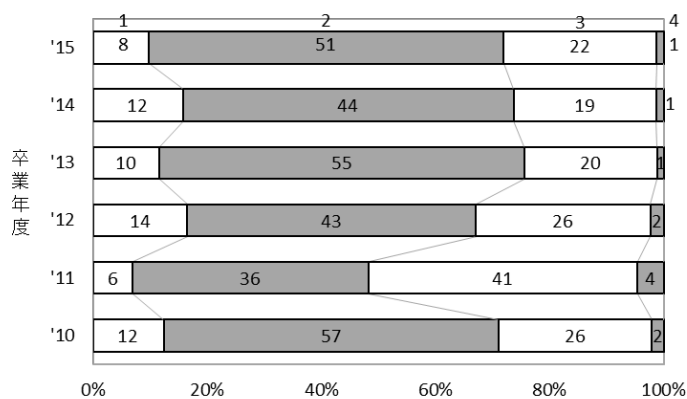
- 1年の内容はある意味で高校のときのおさらいに+αされた程度に感じた。ただ導入という意味ではそれも仕方ないことだとも思う。
- 後悔はない。
- 学部1～3年次
- 授業数が極めて少なく、余暇に時間を費やしすぎた。
- 基礎の知識の学習がまだ不足していると感じた。
- 1年のとき授業多すぎて、2年のときほとんど授業なかった気がします。平均的にしてほしい。
- 全て。
- 高校の時。
- 専門科目の基礎を学ぶから。
- 特になし。
- 思わない。

大多数は、学部時代にもっと勉強しておけばよかったと考えている。つまり、将来設計に対するビジョンを学部生の時から意識させておくことが大切かもしれない。

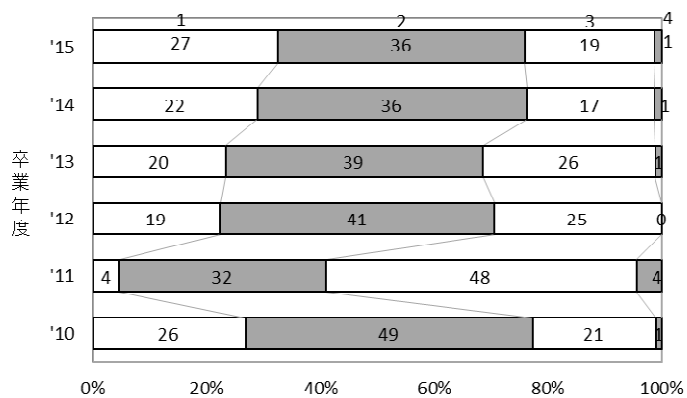
(B22) 学部・大学院の6年間の履修を通してどのような力が身に付いたと思いますか。それぞれの項目に関して、次の4段階で回答してください。

1. よく身に付いた
2. ある程度身に付いた
3. もっと身に付けたかった
4. 全く身に付かなかった

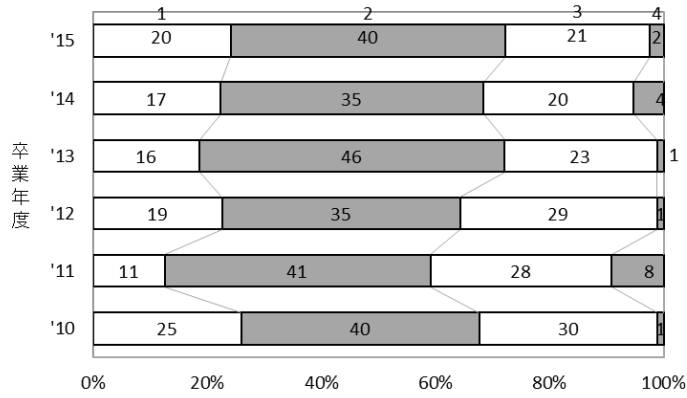
a. 教養・基礎学力：



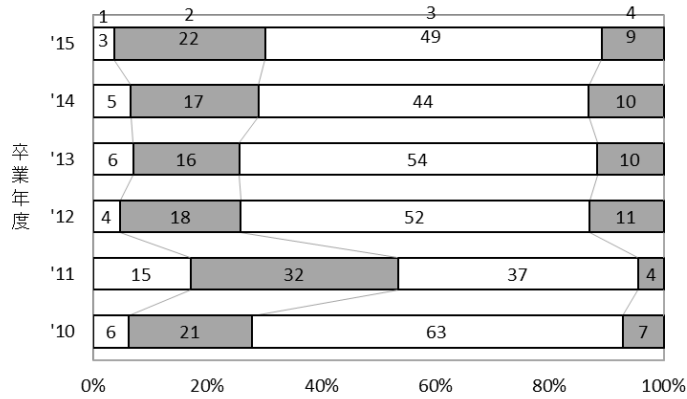
b. 専門知識：



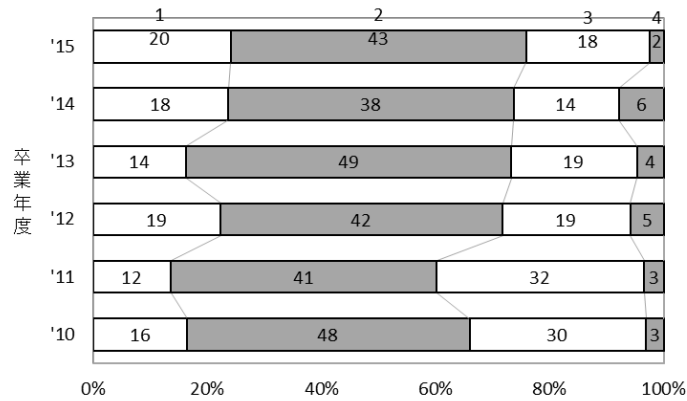
c. 技術・技能：



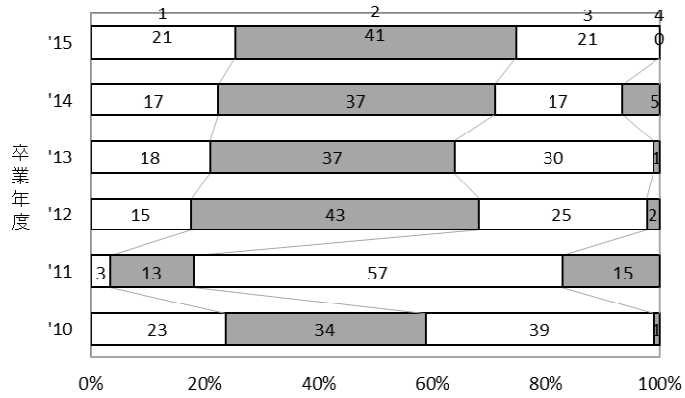
d. 英語を含めた外国語運用力 :



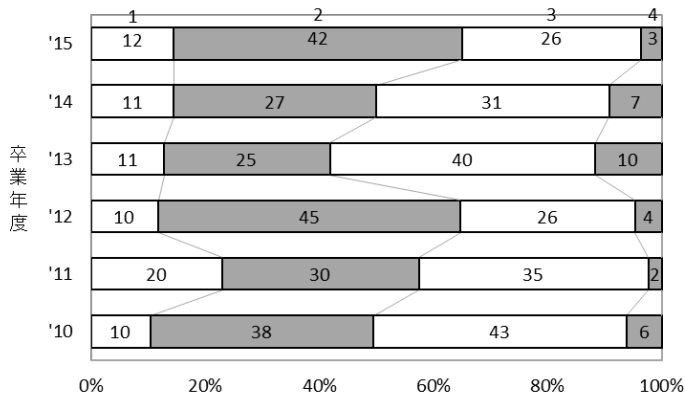
e. 一般的なコミュニケーション力 :



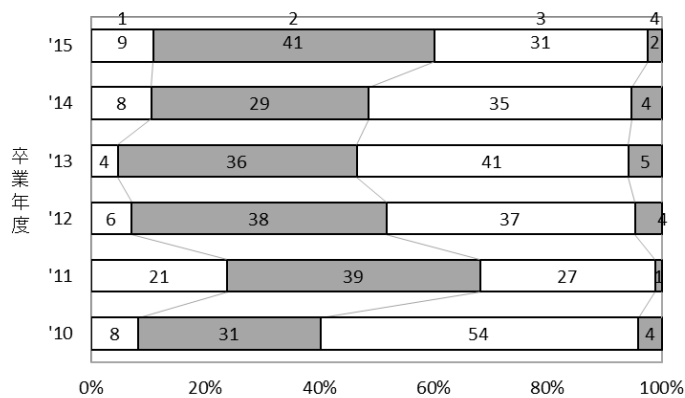
f. プレゼンテーション力 :



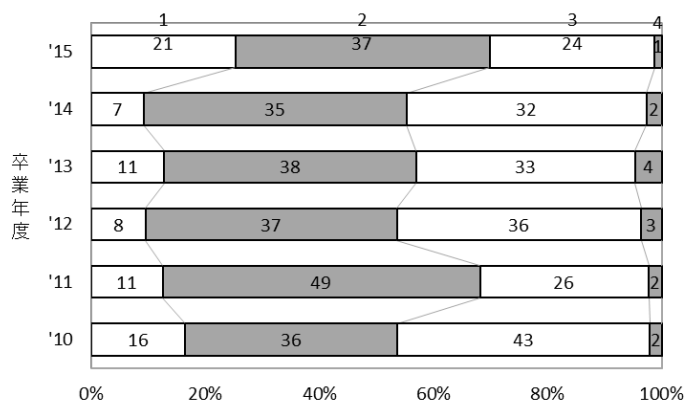
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力 :



i. 課題発見・解決力 :

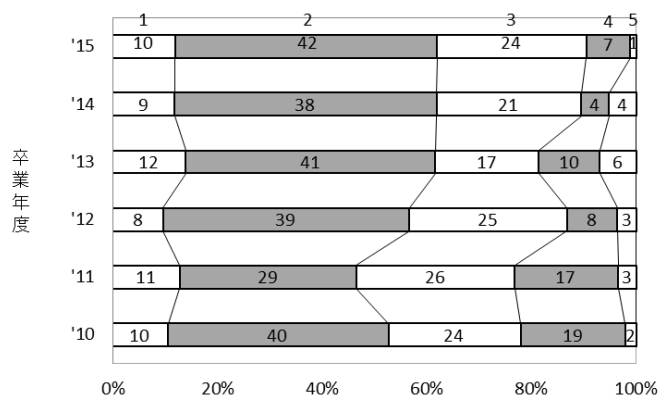


全体的な傾向は一昨年度と同様だった。昨年度だけが少し異なる傾向を示しているのかについては、今後継続的に注視していく必要がある。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：1件



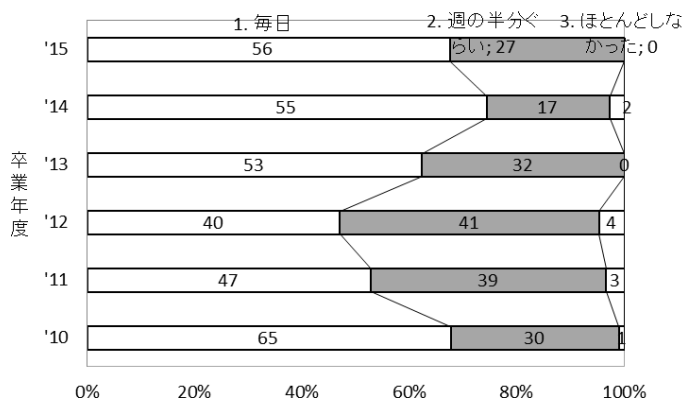
- 学会や就活に時間を使いすぎました。

「満足」「どちらかといえば満足」を足し合わせると50%強であるのは、例年の事のように。満足度という抽象的な言葉に対して、回答者によって基準が変わっているのかもしれない。設問の見直しが必要かもしれない。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

1. 毎日
  2. 週の半分ぐらい
  3. ほとんどしなかった
- 意見など：3件

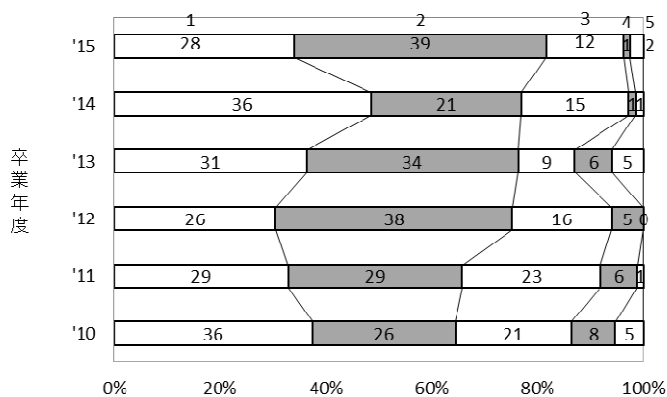


- 土日は体を休めていた。
- 毎日ではないけれど週の半分よりは多い。
- 週5くらい。

「毎日」とする学生が約半分であり、残りの半分は週の半分以下しか研究に使っていない。また、「毎日」の割合がだんだんと減っている。これは就職活動の長期化によるものが大きいと思われるが、詳細な検討が必要かもしれない。設問が毎日か半分しかないので、「3/4程度」も必要かもしれない。

(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
  2. どちらかといえば満足
  3. どちらとも言えない
  4. どちらかといえば不満足
  5. 不満足
- 意見など：2件



- 研究室で差がありすぎる。
- 大変熱心に指導していただいた。

「どちらかといえば満足」以上の回答が7割を越えている。今後は、「どちらとも言えない」とする人の数を減らしていく努力が必要であろう。不満足である理由も聞くべきかもしれない。

(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表、学会発表、セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：48件

- 中間発表 14 件
- 学会発表 22 件
- セミナー(ゼミ) 15 件
- 定期的な学会参加は、モチベーション向上にもつながった。
- 論文を書くこと。
- すべて。
- 研究室でのゼミ (毎週)
- 学会発表 (モチベーション維持につながる)
- 中間発表、学会発表、出張研究
- 海外でのポスター発表
- 毎週の研究室ゼミ
- 2 週間に 1 度行われる先生との研究ミーティング
- 毎週のセミナーはとても役立った。他の先生や違う研究室の人の意見が参考になった。
- 中間発表は、口頭、ポスター両方を扱うので、学会発表の役に立ったと考える。
- 中間発表や学会では様々な方面から意見を聞くことが出来たし、定期的にまとめられるので修論時が楽だった。
- 中間発表で研究をまとめたり、発表する際に自身の研究の流れを再確認でき、研究に対する意見を頂けたのは、研究を進める上で役立ちました。
- 学会発表・・・モチベーションも上がるし、より多くの方々からの意見を頂くことができた。
- 中間発表、セミナー、学会発表 とくに学会は発表するだけでなく自身の研究に関する情報交換、収集にとっても有意義でした。
- 研究室で行っていた毎週のミーティング
- 学会でポスター発表すると多くの方々と意見交換ができるので楽しかったし、今までと別のアプローチの仕方に気付くことができる。
- 生命科学ゼミナールでの発表は論文の読み方から発表まで多くのことを学ぶことができた。
- 中間発表では、一度まとめ他の意見を聞くことで課題が見えてくる。
- 中間発表で今後の課題を明らかにすることはよいと思う。

中間発表や学会発表などの発表を挙げたものが多かった。セミナーおよびプロゼミも多い。発表することが研究に重要であることは伝わっているものと思われる。

## C. 修了後の進路について

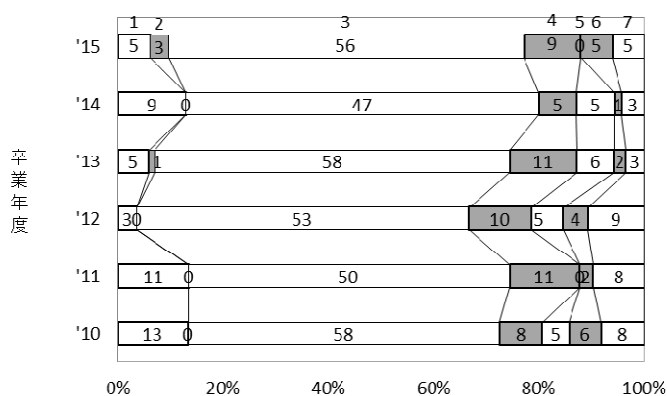
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか.

[大学院博士後期課程へ進学]

1. 熊本大学
2. 他の大学

[就職]

3. 民間企業
4. 教職  
(非常勤および臨時採用を含む)
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他 (進学・就職以外) : 5件



例年ほぼ同様の傾向で、民間企業に就職する院生が多い。教職や公務員も大学院生の進路として一定数あることは、重要である。

(C2) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか.

回答数 : 10 件

- 大学入学前 (1名)
- 学部3年時 (2名)
- 4年前期 (2名)
- M1 (4名)
- 博士前期12月頃 (1名)

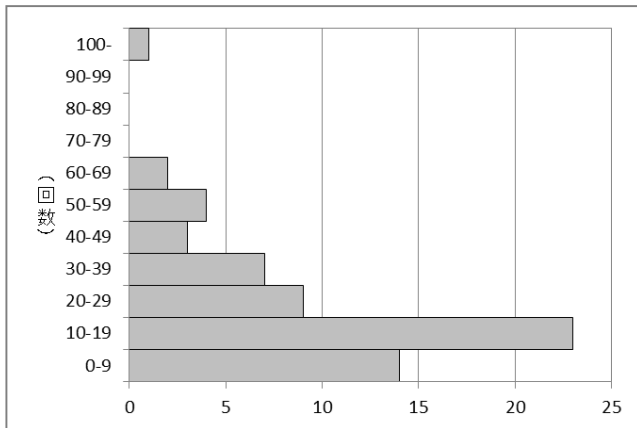
母集団が少なく傾向を読み取るには至らない。強いてあげるなら、博士前期課程の1年次が若干重要な感じがある。

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C3) 就職活動 (面接や企業訪問など) のため、企業を何回訪問しましたか.

回答数 : 63 件





ピークは 10-19 回にあるが、0-9 回、20 回以上という院生も多い。

(C4) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

開始時期	人数
2014/1	1
2014/3	2
2015/8	1
2015/10	1
2015/11	1
2015/12	4
2016/1	4
2016/2	5
2016/3	34
2016/4	7
2016/5	2
2016/6	2

終了時期	人数
2014/3	1
2014/5	2
2014/6	6
2014/7	5
2014/8	27
2014/9	11
2014/10	4
2014/11	5
2014/12	2

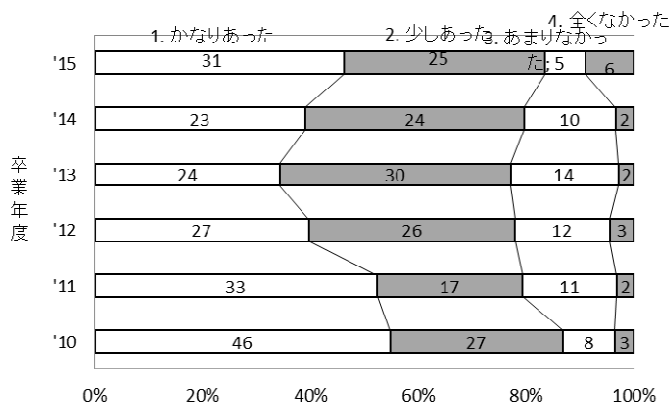
意見など：4 件

- インターンシップ～推薦
- 長かった。
- 就職活動ではなく、教職のための勉強期間。
- 進学者のらんがひつようだと思うよ。

就職活動の開始時期は、M1 の 12 月から M2 の 1 月であることがわかる。一方、終了時期はもう少し広く分散しているが、大体 M2 の 4-6 月である。遅い人では、M2 の年末や 25 年という人もおり、就職活動期間の長期化が懸念される。

(C5) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

1. かなりあった                      2. 少しあった  
3. あまりなかった                    4. 全くなかった
- 意見など：5件

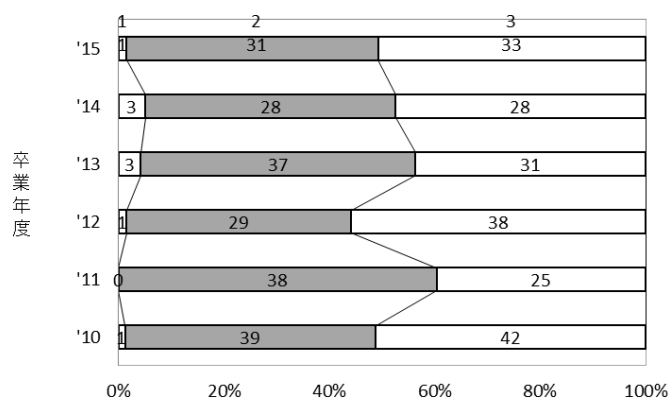


- スケジュール変更の影響は大きかった。
- 3月～と言われていたが、実際は12月～採用活動を行う企業もあり、ただ期間がのびただけであった。また、最も集中して研究できる夏休みの半分以上が就活に取られ、思うように研究できず悔しかった。
- 夏場のフィールドワークに参加できない日が続いた。
- 前期の研究室のゼミにほとんど参加できなかった。研究も全く行えなかった。
- してないっていつてるでしょ。

(C4)の結果から、就活が授業や研究に影響があることは容易に予想される。実際、(C5)の結果は、「かなりあった」、「少しあった」で8割に達している。熊本大学だけではなく、日本の大学全体の大きな課題である。

(C6) 現在理学部では特定の企業に対して学部長推薦の枠もあります。利用しましたか。

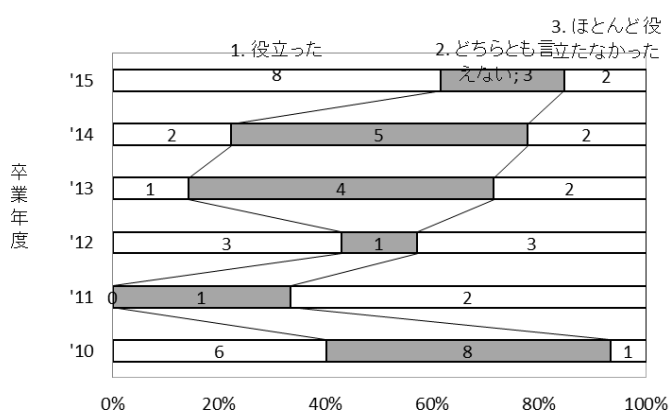
1. 学部長推薦を利用した  
2. 学部長推薦があることは知っているが利用しなかった  
3. 知らなかった
- 意見など：3件



- もっと公にしてほしい。全く知らなかった。
- 化学専攻では聞いた事あるが、生物での推薦は聞いた事ありません。
- 初耳です。工学部だけかと思ってました。

学部長推薦を利用した人は今年度1名であった。今後も周知を徹底するとともに、就職支援の充実を進める必要がある。

(C7) 大学院で学外特別演習（インターンシップ）を履修した人にお聞きします。（教育インターンシップも含みます）卒業後の進路を決め



る上で役立ちましたか.

1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった

意見など：3件

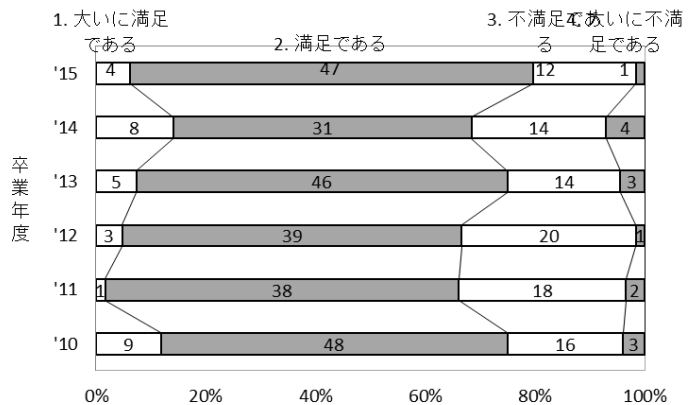
- 受けていない。
- 行けばよかったと思いました。
- 履修していない。

昨年度は「役立った」という回答がなかったが、今年度についてはある程度存在している。全体の数が少ないので、年度ごとのぶれが大きくなっているものと思われる。

(C8) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

意見など：7件



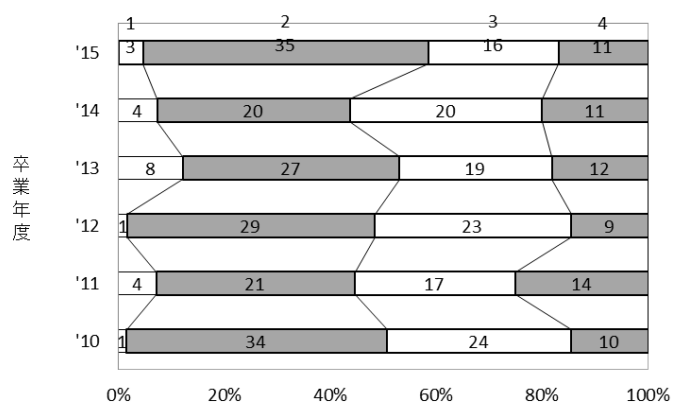
- 利用していない。
- 利用しませんでした。
- ほとんど利用していない。
- 面接練習（指導）などは定員がうまるのが早く、参加できない人が多かったように感じました。
- が、相談したいときに予約できず大変だった。
- 職員の方に相談してもたらい回しにされた。
- 学内で説明会があるのは助かった。面接練習などは全く行わなかった。

「満足である」の割合が昨年、今年と少し下がっている。今後も推移を見守る必要があるだろう。

熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は（D1）に進んで下さい）.

(C9) 就職活動で数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか.

1. 採用の決め手となった
2. ある程度役にたった
3. どちらともいえない



#### 4. 役に立たなかった

意見など：1件

- 幅広い視野を持つことができたと思う。

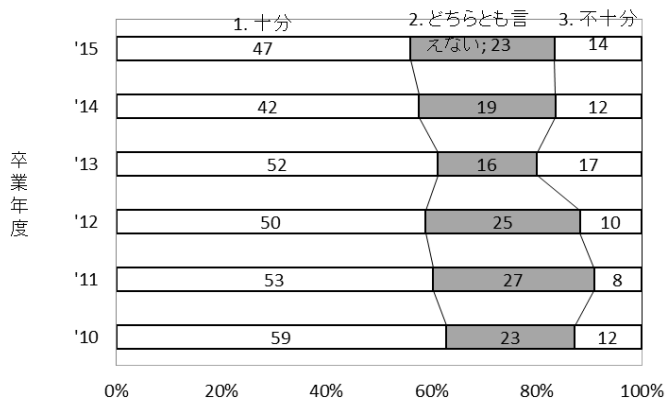
「採用の決め手となった」は1名だけであるが、「ある程度役にたった」までいれると約半数であり、ある程度の評価を受けている。一方、これは半数の人は価値を見いだしていないことを表しており、今後検討する必要がある。

## D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。必要なものがあれば挙げて下さい。

1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分

意見など：12件



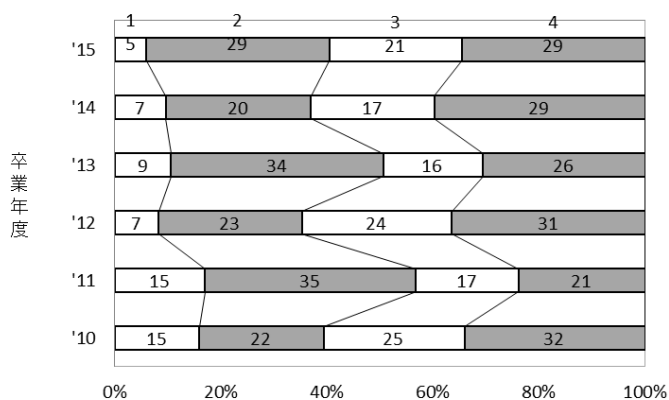
- シャワー室がほしい。
- 研究室に配属されてからは学習できる場所は確保されるが、それまでは圧倒的に不十分かと。食堂で席を占領し学習をする学生が多くいたりするのも仕方がないかと。
- 理学部における1～3年生の自習場所が少ない。
- 南キャンパスにいと図書館まで遠いので、南キャンパスにも勉強できるスペースがほしい。
- 特に化学コースの人が学習できるスペースが全然足りない。学部生の時や学部の後輩も困っていた。
- 読みたいジャーナルが読めないことが多々あった。それをとりよせるまで時間がかかるのでなんとかしてほしい。
- B1～3年次は少ないと思った。
- 学内のネットが弱い。
- センター試験中に勉強できる所がほしい。
- 研究室配属までは不十分。
- 但し、時間外の利用時に申請するのは手間だった。
- シャワー室

「十分」が6割であるが、「どちらとも言えない」や「不十分」も多い。学部生の1～3年次における学習環境の確保を望む学生が多く見受けられた。空き部屋等の有効活用を検討する必要があるのかもしれない。

(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

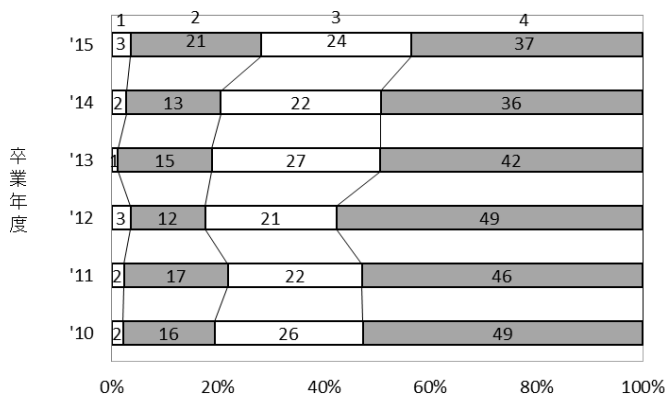
意見など：2件



- 授業料の免除申請ができて助かりました。
- 部活動による経済的な問題が多少。

(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

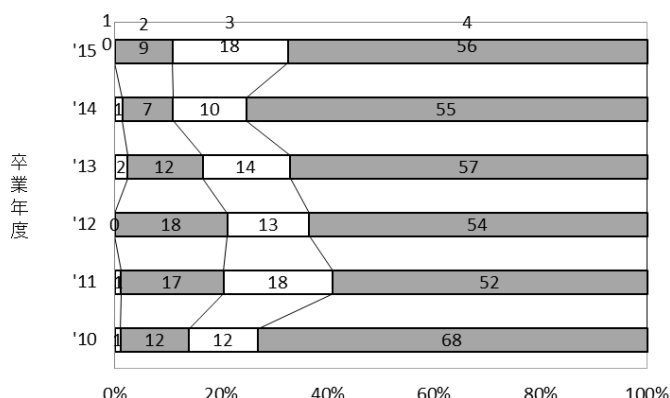
1. ほぼ全期間にわたってあった
  2. 時々あった
  3. 少しだけあった
  4. 全くなかった
- 意見など：2件



- 部活内で、外部のコーチとの問題。
- 教員との相性が悪く、様々なことが重なって人間不信になった。

(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
  2. 時々あった
  3. 少しだけあった
  4. 全くなかった
- 意見など：3件

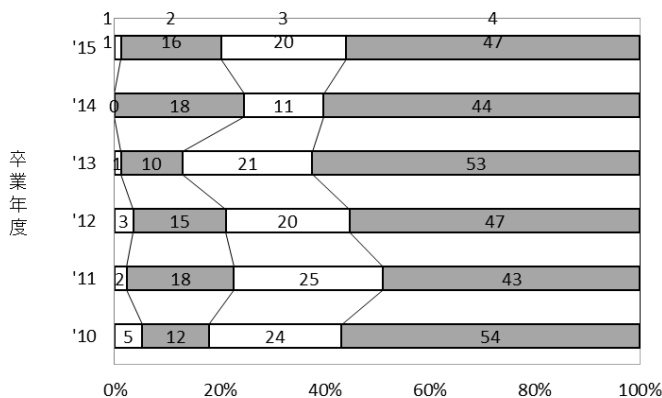


- 質問の意味がよく理解できませんでしたが、「生活スタイル」という「環境」の意味では、夜中まで起きている生活になりました。
- 入学前にいろんな情報がほしかったなあと思います。
- 実家暮らしで家が少し遠いので、実験で遅くなり研究室に泊まることも多かったので、シャワー室があれば良いのにと思っていた。

「少しだけあった」と「全くなかった」を足すと80%を超え、比較的住環境等に問題を抱えている学生が少ないことが分かる。しかし、依然として2割くらいの学生は時々問題があったと答えている。大学院生は、学部生と異なり遅くまで実験等で居残るため、その辺のケアをどのように解決するか検討する必要があるかもしれない。

(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか。

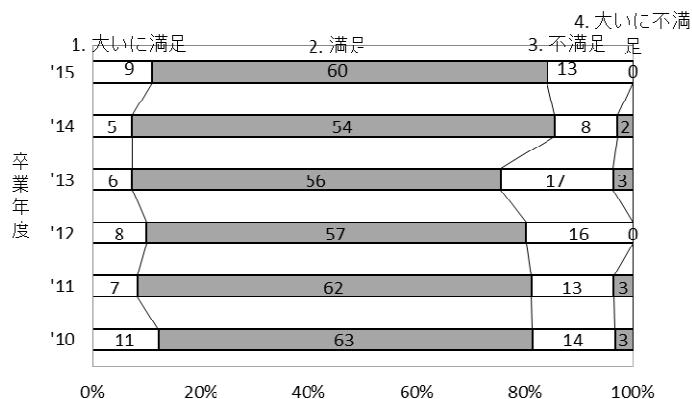
1. ほぼ全期間にわたってあった
  2. 時々あった
  3. 少しだけあった
  4. 全くなかった
- 意見など：2件



- 朝と夜逆になったような生活になったので、疲れやすくなった。頭痛持ちだったが、さらにひどくなった。
- 太った。

(D6) 健康相談の体制には満足できましたか。

1. 大いに満足である
  2. 満足である
  3. 不満足である
  4. 大いに不満足である
- 意見など：3件

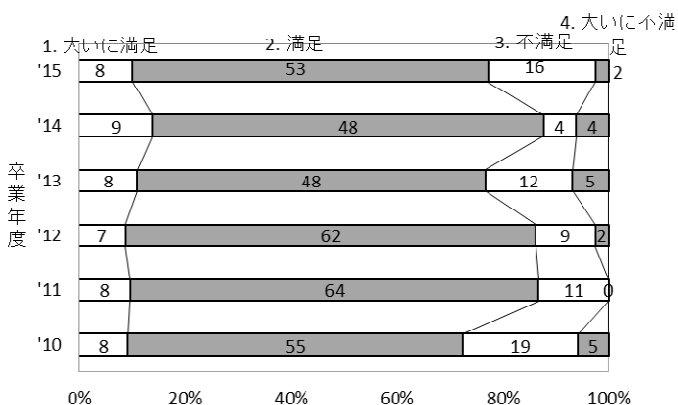


- 不満足というより実態を知らないので満足ではない。
- 利用していない。
- カゼのときは助かりました。

健康面に問題が「時々あった」院生の割合が2割おり、これらの院生に対する策を検討する必要がある。相談体制に関しては、「満足」している院生が8割となっており、現状の満足度は高い。

(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できましたか。

1. 大いに満足である
  2. 満足である
  3. 不満足である
  4. 大いに不満足である
- 意見など：7件



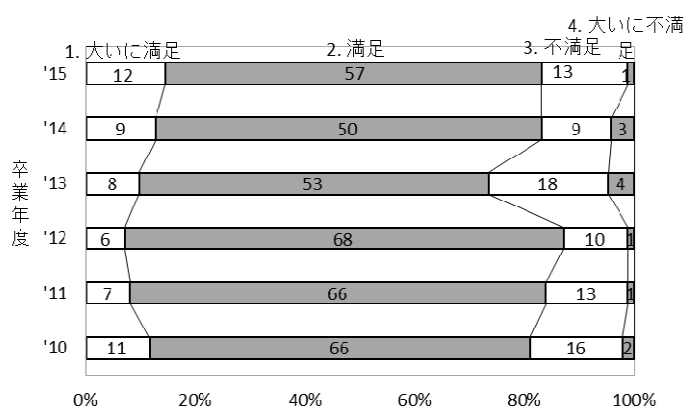
- わからない。
- 利用したことがない。
- 利用していないため分らない。
- 上の項目と同じ。(不満足というより実態を知らないので満足ではない。)
- 利用したことがないので分かりません。
- 利用していない。
- 利用したことないです。

「満足である」が8割を占める多数となっている。

(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

意見など：4件



- 自然科学科の授業評価が分らない。
- 授業料免除システムはもっと厳格に学生を評価した方がよいかもしれません。中にはバイトのために学業に専念できない友人もいる一方で、免除採択されて遊んでいる友人もいました。
- Wi-Fi がつながりにくい。
- 研究室のある棟の下に喫煙所があって、くさかったので困りました。学内禁煙になりませんか。

環境全体に関する満足度も高く、8割を越えている。記述欄を見る限り、残りの2割の不満は多岐にわたっており、個人的な問題も含め更なる調査が必要かもしれない。

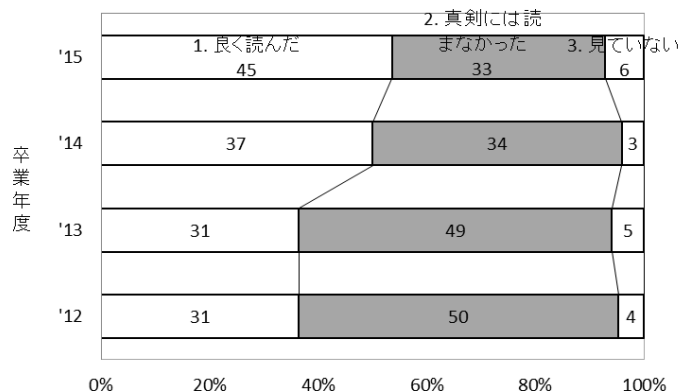


## E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

(E1) シラバスは良くよみましたか。

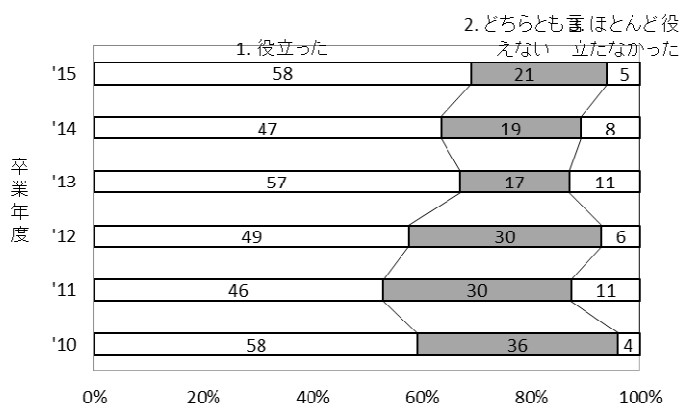
1. 良く読んだ
  2. 真剣には読まなかった
  3. 見ていない
- 意見など：2件



- 読みはしたが、内容はあまり頭に入らなかった。
- ものすごく真剣によんだ。

(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

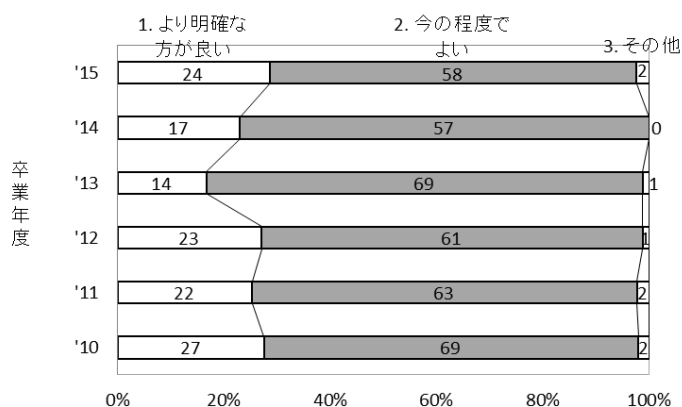
1. 役立った
  2. どちらとも言えない
  3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：0件



シラバスは「真剣には読まなかった」が、履修科目の選択には「役立った」ようである。大学院の授業においてもある程度シラバスが利用されていることがわかる。一方、3割がシラバスを役立ったかについて「どちらとも言えない」としており、今後検討が必要である。

(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方が良い
  2. 今の程度でよい
  3. その他
- 意見など：2件

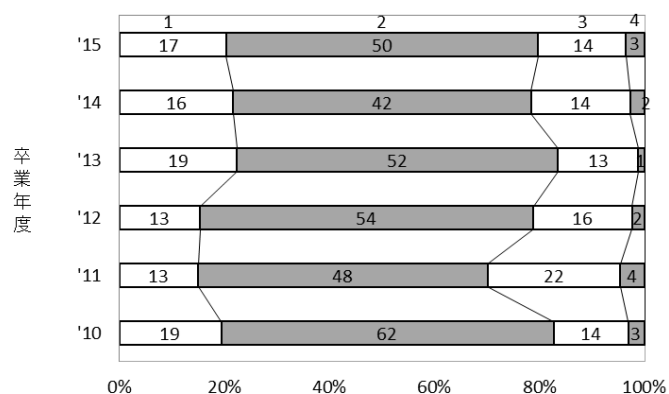


- 分らない
- 人によって違う。

(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他

意見など：4件



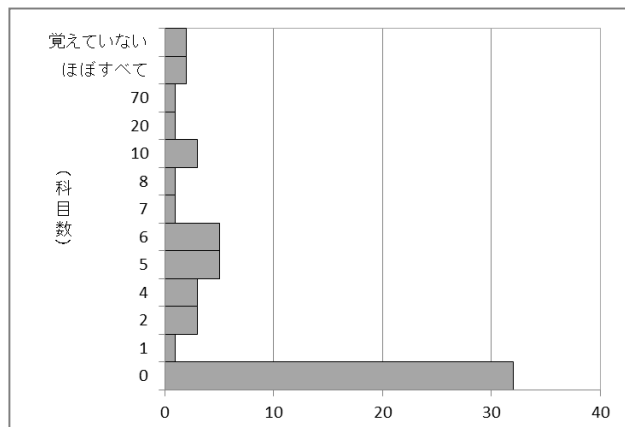
- 確認していない
- 人による。
- やってるところはやってると思うけど、やってないところは評価の基準があいまいで厳格ではない。どちらかという、やってない印象が強く残っている。
- 先生によると思います。多忙な先生方だとなかなかシラバス通りにいかないのが現状だと思います。

「多くの科目で行われている」が50%近くに達しており、特定の科目が厳格な成績評価を実施していない状況を表している。これらの事は、自由記述欄にも反映されており、全体というよりも少数の教員による問題かもしれない。学生に不公平感が発生しないように、する必要がある。

大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きます。

(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか。

回答数：60件



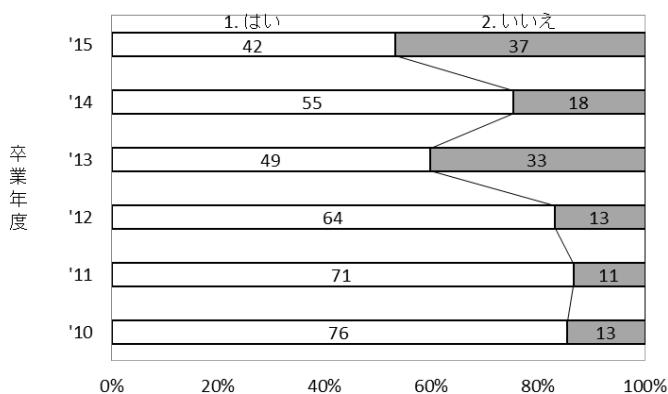
回答したことがないとする学生が30%にも達している。アンケートの意義や意見収集のフィードバックをもう少し改善すべきであろう。

(E6) アンケートの回答に積極的に協力しましたか。

1. はい

2. いいえ

意見など：6件



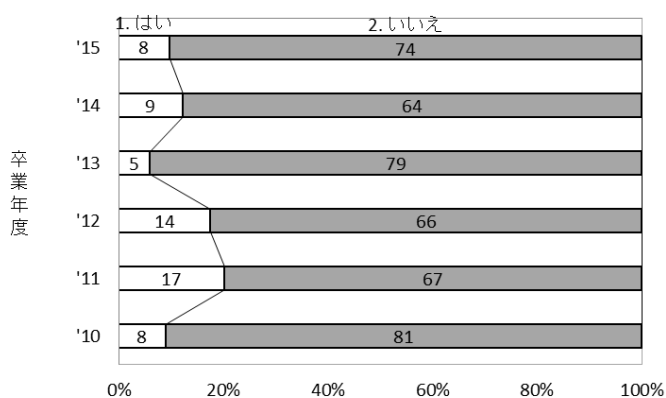
- 分らない
- 覚えてない。
- アンケートは好きです。
- 覚えてないのでわからない。
- 求められた時は。
- アンケートが配られていたら積極的に協力する。

(E7) Web 上での教員のコメントは読みましたか.

1. はい

2. いいえ

意見など : 3 件



- 知らなかった。
- コメントを入力している教員が1人しかいなかった。
- あったかわからない。

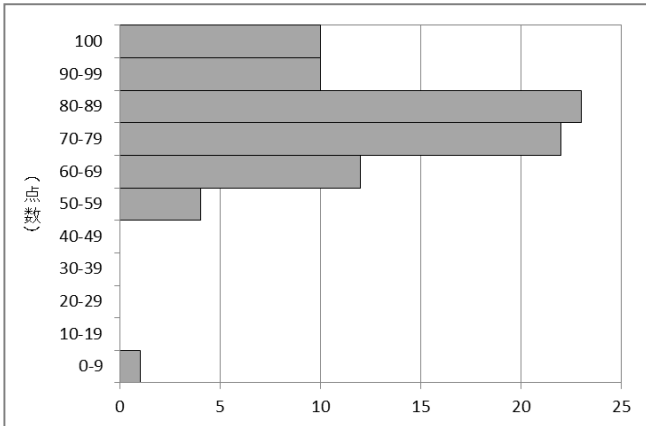
教員のコメントはほとんど読まれていないことがわかる。この割合はシステム的な問題と思われるので、システムの改善が望まれる。

## F. 総合評価

理学専攻に対する評価をお聞きします。

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい。

回答数：82 件



意見など：7 件

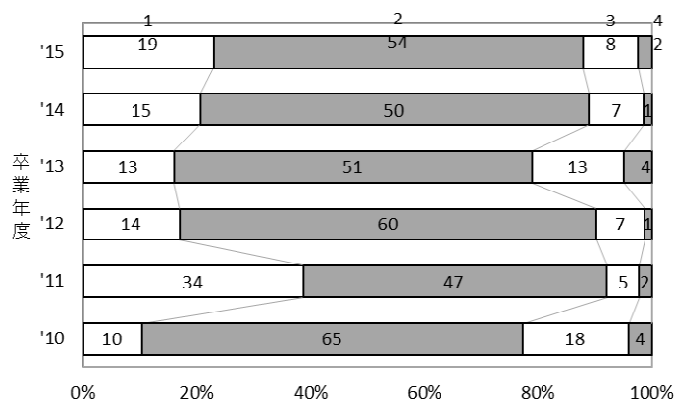
- 良くも悪くもない、研究室に依る。
- 専門性は身についたが、周辺分野の学習機会が非常に少なかった。
- 研究へもう少し打ち込みたかった。
- 研究室によっては、自分の研究以外のこと（研究室関連の雑務）に多くの時間を費やさざるを得ないところもあります。
- 専攻に対する「何の」評価なのかわからない。アンケートとして不十分かと。
- 研究はきつかったが、面白く、学ぶことがたくさんありました。
- 学業を最優先に生活はしたが、全力ではやっていないので。

80-89 点をピークとしており、概ね満足していると感じる院生が多いことがわかる。

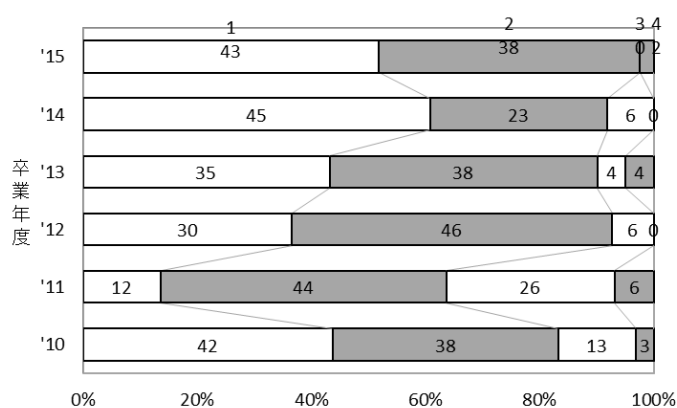
(F2) 理学専攻の評価項目に関して次の 4 段階で回答して下さい。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

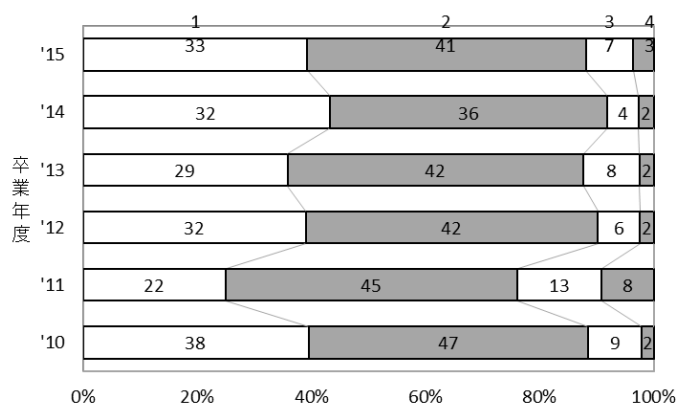
a. 授業科目の開設状況：



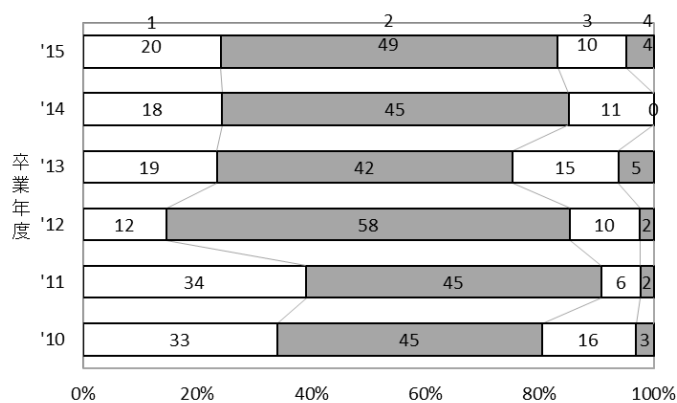
b. 修論等の指導 :



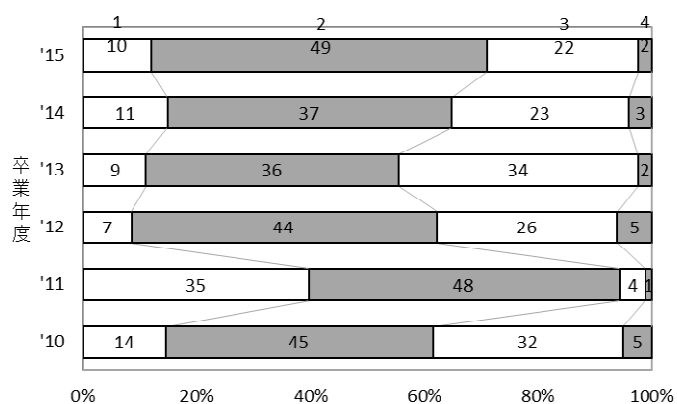
c. 研究室等での人間関係 :



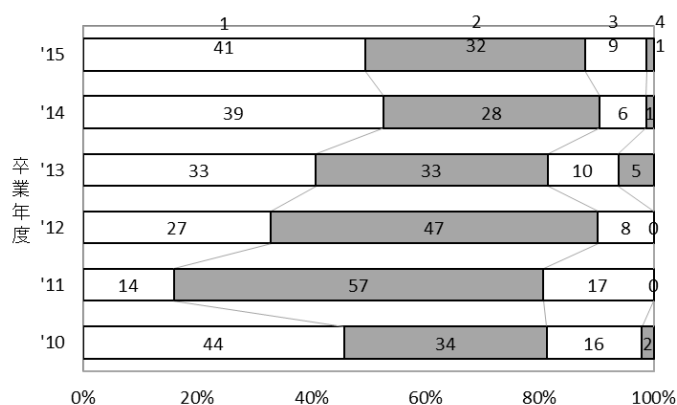
d. 施設や図書等の勉学環境 :



e. 国際交流 :



f. 教職員等の熱意・対応態度等 :



意見など : 7 件

- アンケートが長いことが不満。
- 自分の研究室と他研究室の学生への態度がちがう気がする。研究室の先生同士もっと仲よくしてほしい。
- 講読しているジャーナルが少なすぎて、論文を読めない。
- 履修したのに開講されず、何の連絡もない授業が多々あった。
- 先生方もお忙しいとは思われますが、授業科目が隔年で開かれるので、受講したくてもできなかった。

- 事務職員、特に自然科学総務、教務の一部の方の勤務態度に不誠実さが見られたのが残念でした。
- 特に担当の教授は親身に接してくれた。

3年間分のアンケートを見ると、昨年度が一昨年・今年と少し異なることが見て取れる。これらについては今後もアンケート活動を続けることで明らかにしていく必要があるだろう。